

0～15歳の園小中一貫教育

道標(号外)

京都市 魅力ある学び舎

久御山学園 全体研修会 3カ年の成果と課題

久御山町立こども園、小・中学校でつくる「久御山学園」の全体研修会が24日、役場で開かれた。府教委の京都市「効果のある学校づくり」推進事業の指定期間(2016～18年度)の3カ年の取り組みを振り返り、園小中一貫教育でのより魅力ある学び舎づくりを探った。

同事業は、基礎学力の充実と希望進路の実現に向けた学校づくりを府教委が支援するもの。町内では久御山中

学校と小学校全3校(東角・佐山・御牧)が実施校に指定されている。全体研修会は今年度

2回目。同事業アドバイザーの原田琢也・金城学院大学教授が「学園全体の総決算」であ

る久御山中に焦点を当て、成果と課題を説明した。原田教授は、成果の要因に▼久御山学園として町全域の教育機関が一体となった組織的な取り組み▼地域への発信▼校長のリーダーシップなどを挙げ、



研修会では保育や教育の推進に尽力した教職員3人を表彰

「ポジティブで、失敗を恐れずチャレンジしようという学校文化ができたことが大きい」などと評価した。100%を求めず、まず「きょうもよう学校に来てくれた」と生徒を迎える指導方針にもうなずいた。

その上で、学習支援と家庭連携・家庭教育支援の課題を指摘。解決策として、東角小での「成長ノート」のよ

うな取り組みを学園全体に広げることや、学習の中での地域資源の活用などを提案した。最後に「事業は終わるが、学園の全教職員が『すべての子供を大切に』という意識を共有し、組織的に協働することで、さらなる飛躍は可能」と述べた。この日は、園・校の教職員約100人が実践発表や部会報告に聞き入った。学園長の南亮司・久御山中学校長は「学園で育てたい言語力と自己指導能力のベクトルをさらに合わせ、『子供ファースト』『児童生徒ファースト』の視点で、久御山ならではの教育を進めたい」と呼び掛けた。冒頭、保育や教育の

久御山ならではの

推進に尽力した教職員3人の表彰もあり、0～15歳を見通した子供たちの成長への貢献をたたえた。